

ドクターカー内部の患者灯について

<背景>

「ドクターカー内が暗い」「術野が見えにくい」「無影灯を付けられないだろうか？」
そういった要望は昔から多くあります。

照度を上げれば、明るくはなりますが、影も強くなります。乱反射がキラキラして
眼が疲れます。医療エリア同等の照明を、車両特装で実現するのは困難であり、
ほぼ不可能です。これまでも良い対策は無く、スタンド式の無影灯をドクターカー
患者室内に設置するのが、せいぜいでは無かろうかと思えます。

<要因>

無影灯を設置したドクターカーの内装は、いかにも走るER、Mobile ICUといった、
機能万能の雰囲気がありますが、実際の使い勝手は然程良い訳ではないそうです。

要因として、ドクターカー内に照明を設置出来るエリアが限られているのと、
その内装空間、特に車内天井の高さが院内と圧倒的に異なるためにそうになってしまいます。

奥を覗き込む手技、更に臓器の裏まで天井から吊り下げた無影灯の光だけでは、
充分な光が届かず、見え難いことの解決が出来ません。

更にドクターカーが、何らかの理由で電源消失した場合に、無影灯も一緒に機能
しなくなってしまうデメリットもあります。

<対策>

弊社では発想の異なる‘メディカルライト’の搭載をお勧めしており、非常に好評を
頂いておりますので紹介させていただきます。勿論、普段は院内でもお使い頂けます。

[仕様]

光源	高輝度LEDで省電力。約6時間×2、程度使用可能
照度	145,000Lux(距離400mm)。無影灯と同等 細かい血管や神経まで見えるので、出血量減少、神経温存に効果的。 トータルでの手術時間の短縮にも有効。
減影効果	あり(クロス配光により実現)
深部・側壁	照射可能。
生産国	日本
車内機動性	あり。取外して院内使用可能。

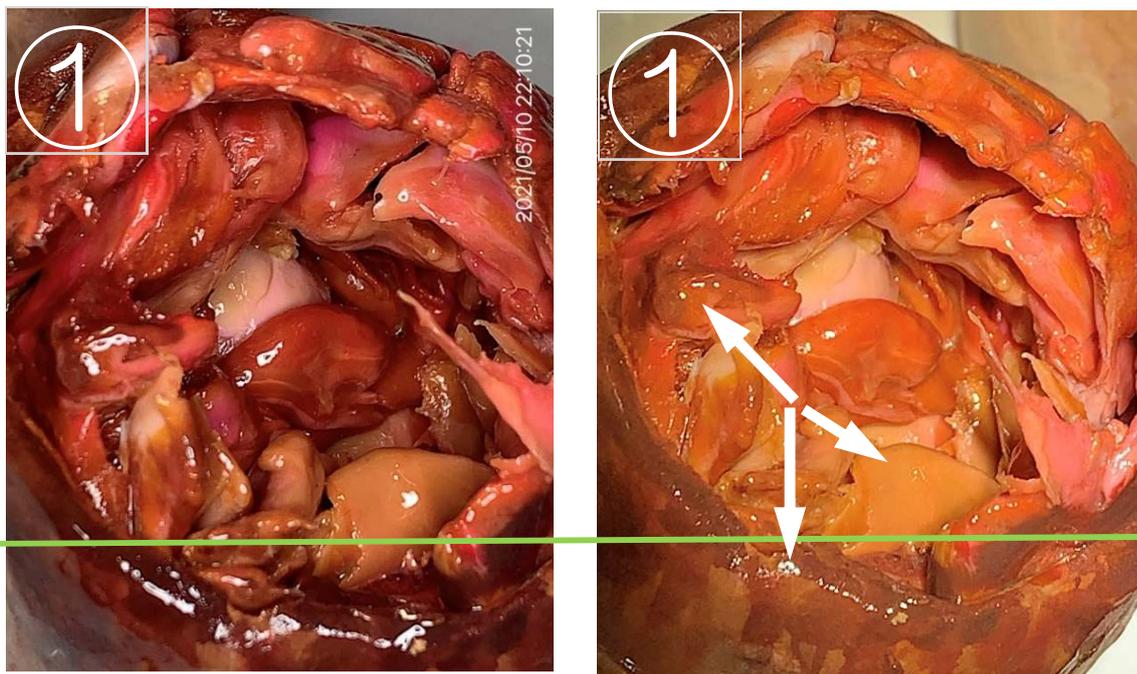
ライト本体→



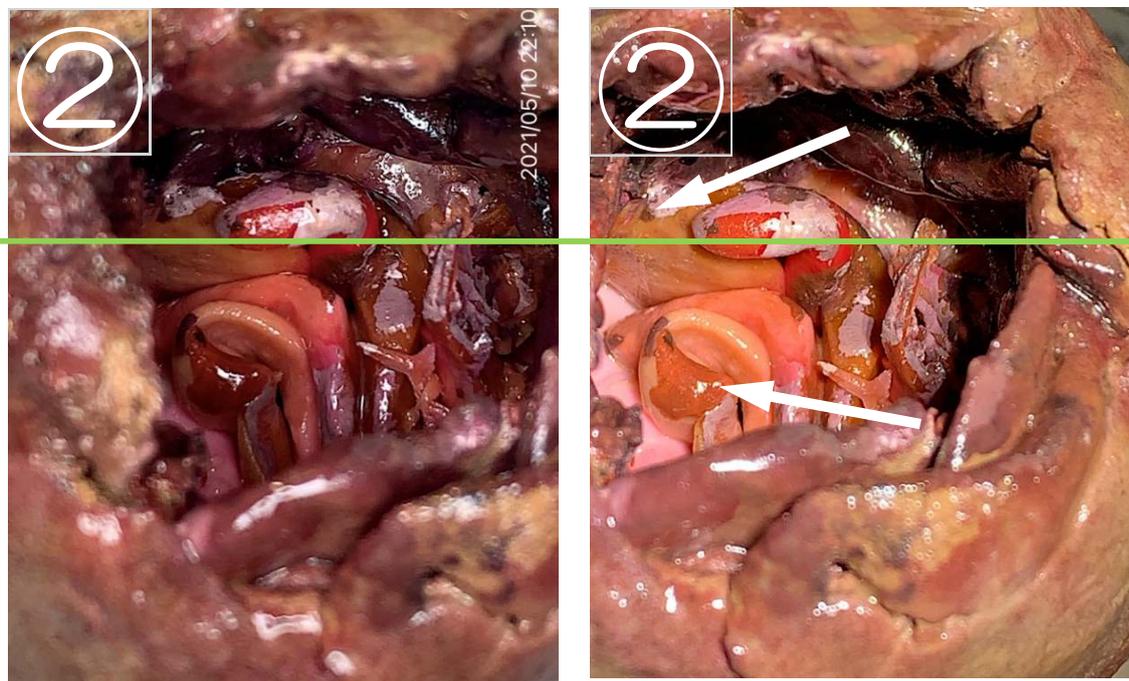
<市販ライトとの見え方比較>

※下図は臓器ではありません。

メディカルライト（右）の方が、乱反射（矢印部）が、少ないことが判る



メディカルライト（右）の方が、深部（矢印）まで鮮やかに見えることが判る



※ご興味のある方は、ご連絡頂ければデモ機で体感して頂けます。



AKAO 救急車 相談窓口
株式会社 赤尾・特需部 救急担当
東京都千代田区外神田6-13-13
03-3832-2204